



メンバー経験者からの声

- ◆ 年二回の検討会に参加し、全国に積極的ながん患者や寄り添う仲間に出会える機会となりました。正しいがん情報、国のがんに対する取り組みを知り得た事で、地域格差を間のあたりにしながらも、地元を持ち帰り、少しずつ広げていく必要性和意欲が湧き出た4年間でした。感謝!! (山形県 女性)
- ◆ ピアサポート活動を主体とした支援活動をし始めたころ、患者・市民パネルを知りました。がんに関する情報があふれるなかで、多くの患者や家族が、正しい情報、必要な情報を求めて苦慮している場面に出会うことが少なくありませんでした。パネル活動の一環として、ピアサポートサロンでは「がん対策情報センター」のことを伝え続けてきました。また年2回の検討会での全国の仲間との交流で得たものは私の財産となっています。(福島県 男性)
- ◆ がん対策情報センター発行の「冊子」の、改定版発行に当たっての「査読」のお手伝いをする機会を得ることができました。「患者にとって、読みやすく・理解しやすい冊子」の発行までの過程のほんの一部ですが、関わることができ、お役に立てることができたのではという「やりがい」、一つの事を成し遂げたという「充実感」を味わうことができ、自己満足の域を越えませんが「心を豊にする」時を過ごす事ができました。(栃木県 男性)
- ◆ 私はこれまで4年間、患者・市民パネルをさせていただきました小児がん経験者です。これまでの活動では他のがん経験者の方々との意見の交換、がん対策情報センターから発行されている「がんの冊子」の査読、研究協力などをさせていただきました。いずれの活動も自分にとって知らないことを学ぶ機会になりました。また、今がんと闘っている方々のためになると思うと、とてもやりがいのある活動でした。貴重な機会をいただけたことに感謝しています。(東京都 女性)





- ◆ 患者・市民パネルに参加をして、同じ気持ちを持つ全国の仲間と知り合うきっかけとなり、さまざまな活動をする仲間の姿に刺激を受け、力をもらいました。気持ちを共有でき、互いの意見を尊重し、情報交換できる場でもありました。がんを経験した自分に何ができるのかはこれからも続いていく課題です。 （京都府 女性）
- ◆ 私自身の心身の回復と共に患者・市民パネルとして歩んだ4年間でした。パネルに参加させて頂いている間に社会復帰も果たし、2019年春には臍帯血移植から5年が経ちました。検討会はいつも活気に溢れていて、日本各地で活躍されている患者の皆様から、前向きに生きるエネルギーをもらいました。また、がん罹患により希薄になっていた社会との繋がりを、体験談の執筆や原稿査読を通して、少しずつ取り戻せたのではないかと考えています。 （岡山県 女性）
- ◆ 全国のがん患者の皆さんと活動を知ることができて良かったです。会に出席している方々は、とても前向きで輝いていました。それぞれの地域で活動されていて、パワーを感じました。国立がん研究センターがん対策情報センターの方々も、非常に熱心で頼もしく感じました。最前線のお話で、方向性を垣間見ることができました。患者・市民パネルで議論した内容を、地域でも少し話し合いました。都会と地方では情報格差がありますので情報提供に役立ちました。 （香川県 女性）

